



■ 会社概要 (2013年12月31日現在)

社名 株式会社構造計画研究所
 英文商号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
 設立年月日 1959年5月6日
 資本金 1,010百万円
 決算期 6月
 上場市場 東京証券取引所(JASDAQスタンダード)
 事業内容 エンジニアリングコンサルティング
 システムソリューション
 プロダクツサービス

■ 株式の状況 (2013年12月31日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
 発行済株式総数 6,106,000株
 株主数 1,769名

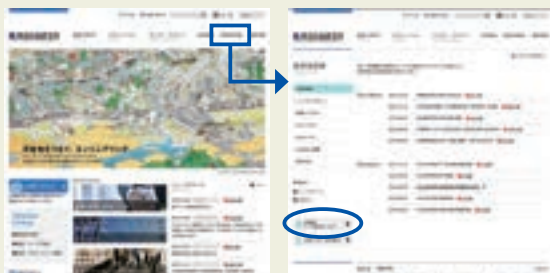
■ 株主メモ

事業年度 7月1日~翌年6月30日
 基準日 6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目
 10番11号
 TEL: 0120-232-711
 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.kke.co.jp>
 (ただし、電子公告によることができない
 事故、その他のやむを得ない事由が生じ
 たときは、日本経済新聞に公告いたし
 ます。)

IR情報 メール 配信サービス

「ディア・ネットサービス」によりプレスリリースやIRサイトの
 の更新をメールにてお知らせいたします。



<http://www.kke.co.jp/ir/>



環境に配慮した
「ベジタブルインキ」
を使用しています。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用
しています。



ステークホルダーの皆さまとKKEをつなぐ
K K E : R E P O R T

56期(上半期)

2014年6月期(上半期)(2013年7月1日~2013年12月31日)

KKE is a Professional Design & Engineering Firm that acts as a bridge between academic and business worlds.



平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

構造計画研究所は1956年の創業以来積み重ねてきた「工学知(エンジニアリング)」を最大限に活用し、社会の問題を解決する「総合エンジニアリング企業」を目指しております。

当社のステークホルダーの皆様におかれましては、当社の支援者として、あるいはパートナーとして長期的な信頼関係を築きたいと考えております。

今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社構造計画研究所

第2四半期累計期間の業績

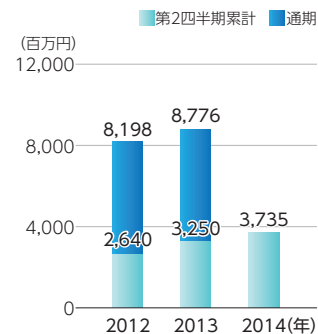
売上高は37億35百万円(前年同四半期比4億84百万円増)となりました。「次世代の社会構築(デザイン)」の促進に貢献するという理念のもと、3つのセグメントそれぞれで受注が順調に推移しました。主に防災関連や、安心・安全な社会構築を支援するコンサルティング業務、住宅関連のシステム開発、製造業のリスクマネジメントソリューション及びネットワーク通信シミュレータなどが好調でした。

営業損失は1億17百万円(前年同四半期比3億35百万

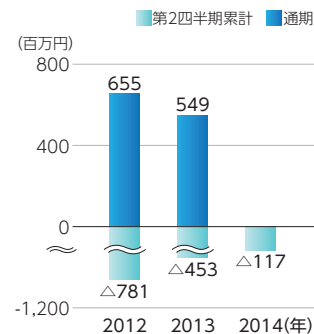
円損失減)、経常損失は1億44百万円(前年同四半期比3億43百万円損失減)、四半期純損失は1億11百万円(前年同四半期比1億80百万円損失減)となり、いずれの指標も前年同四半期に比べ改善しております。

なお、当社では、多くの顧客が決算期を迎える3月末から6月末にかけて、成果品の引き渡しが増加することから、第2四半期累計期間に占める売上高の割合は低い水準となる傾向があります。当第2四半期累計期間の損失は、かかる季節変動による影響であります。

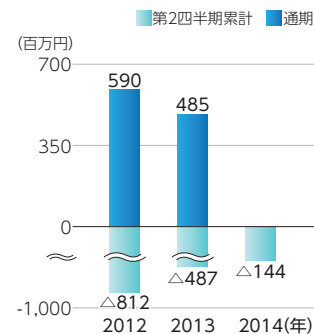
●売上高



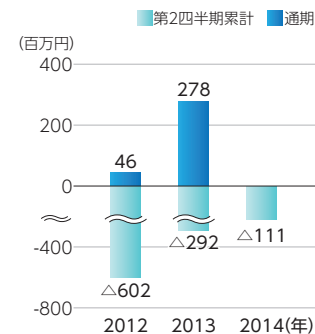
●営業利益



●経常利益



●純利益



高収益構造の構築・人材のプロフェッショナル化を推進

当社は「高い顧客満足度」と「付加価値の向上」の追求を通じて、より良い社会の実現と付加価値のある企業成長を果たすべく、中長期的な視点から3つの重点テーマと領域(キーワード)を設定し、それらの実現に注力しています。

重点テーマの1つ目は「品質管理の徹底による強固な収益構造の構築」です。品質保証センターを設置して組織的な品質管理体制を構築し、全ての事業における最終製品の品質確保、営業提案段階から最終工程までの各プロセス管理、選別受注を徹底しているほか、社内管理体制の維持強化、所員の技術向上支援などに取り組みながら、強固な収益構造の確立を進めています。

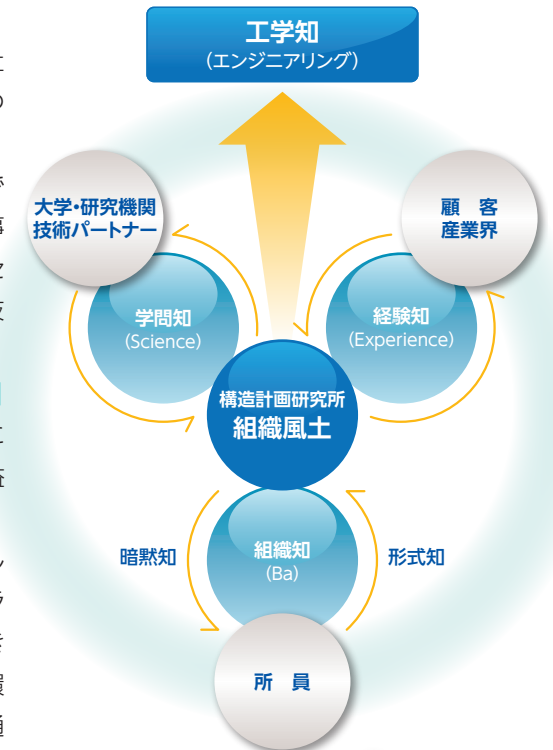
2つ目のテーマは、「エンジニアリングコンサルティングビジネスの拡大」です。エンジニアリングの原点へと回帰を図りながら、独自技術の提供により高収益を確保できるコンサルティング領域を拡大していくことで、収益性の向上を図っています。

そして、3つ目のテーマ「経営資源の拡充」では、独立系の利点を活かしつつ、大学・研究機関や独自技術を持った多種多様な企業との対等なライアンスをグローバルに推進しているほか、グローバルビジネスに対応できる優秀な人材の採用、エンジニア、マネジャー、マーケターなど、経済環境の変化に適時適切に対応できる多様なプロフェッショナルの育成などを通じて、さらなる付加価値成長の礎を築いています。

また、これらのテーマのもと、特に注力する領域を「Public」、「Local」、「Global」の3つをキーワードとして、ビジネスを展開していきます(下図)。

利益配分に関しては、株主に対する利益還元を重要な経営課題と認識し、継続的かつ安定的に配当を行うことを基本方針としております。

- PUBLIC** → 防災や通信関連の技術コンサルティング企業としての強みを活かし、社会の制度やルール策定から積極的に参画する。
- LOCAL** → 地域に特有の災害避難や交通渋滞などの課題解決を現場と連携して支援する。
- GLOBAL** → 日本企業の海外展開を支援し、提携している海外パートナーの高い技術ソリューションを展開する。



■付加価値成長の源泉■

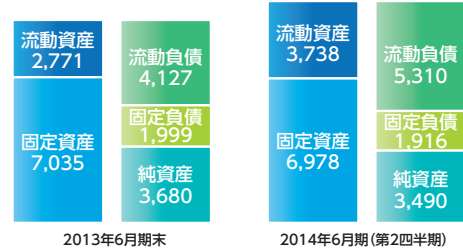
当社は、当社の組織に蓄積されてきた「組織知」に加え、大学・研究機関と培ってきた「学問知」、顧客との協業の中で培った「経験知」を融合し、生み出された「工学知(エンジニアリング)」を使って、今後の復興活動や「次世代の社会構築(デザイン)」の促進に貢献する組織を目指しております。

当社では営業利益に人件費を加えた額を付加価値と定義し、各ステークホルダーへの分配可能原資を表しています。



← 四半期貸借対照表のPOINT →

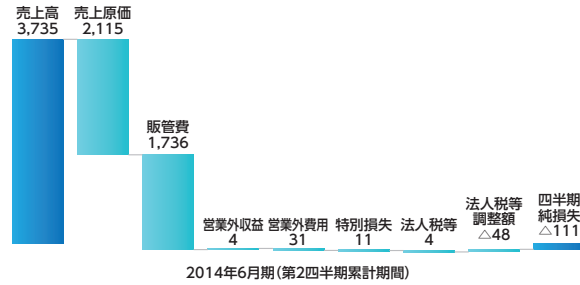
(単位: 百万円)



- ← 主に現金及び預金が2億38百万円、仕掛品が4億91百万円増加したことにより、流動資産は前事業年度末に比べて34.9%増加し、37億38百万円となりました。
- ← 主に退職給付引当金が47百万円増加する一方、長期借入金が1億24百万円減少したことにより、固定負債は前事業年度末に比べて4.2%減少し、19億16百万円となりました。

← 四半期損益計算書のPOINT →

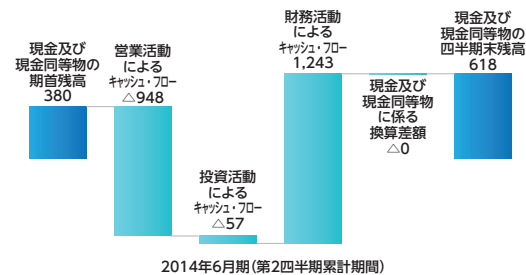
(単位: 百万円)



- ← すべてのセグメントで売上高、利益面とも前年同期比で改善しており、順調に推移しております。

← 四半期キャッシュ・フロー計算書のPOINT →

(単位: 百万円)



- ← 営業活動において賞与引当金の増加額1億93百万円の資金流入、たな卸資産の増加額4億92百万円、未払費用の減少額3億4百万円、法人税等の支払額3億45百万円の資金流出で、資金の減少は9億48百万円となりました。
- ← 財務活動においては、短期借入金の純増減額17億円及び長期借入金の返済による支出3億99百万円により、12億43百万円の資金増加となりました。

■ 四半期貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

	当第2四半期 (2013年12月31日現在)	前事業年度 (2013年6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,738	2,771
現金及び預金	618	380
受取手形及び売掛金	1,441	1,257
仕掛品	922	431
その他	756	702
固定資産	6,978	7,035
有形固定資産	5,539	5,583
無形固定資産	369	398
投資その他の資産	1,069	1,053
資産合計	10,717	9,807
(負債の部)		
流動負債	5,310	4,127
買掛金	231	271
短期借入金	2,990	1,290
1年内返済予定の長期借入金	335	610
その他	1,754	1,955
固定負債	1,916	1,999
長期借入金	484	609
リース債務	18	24
退職給付引当金	1,357	1,310
役員退職慰労引当金	40	40
資産除去債務	15	15
負債合計	7,227	6,127
(純資産の部)		
株主資本	3,487	3,674
資本金	1,010	1,010
資本剰余金	1,041	1,041
利益剰余金	1,938	2,165
自己株式	△ 502	△ 542
評価・換算差額等	2	5
純資産合計	3,490	3,680
負債純資産合計	10,717	9,807

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

	当第2四半期累計 (2013年7月1日から 2013年12月31日まで)	前第2四半期累計 (2012年7月1日から 2012年12月31日まで)
売上高	3,735	3,250
売上原価	2,115	1,946
売上総利益	1,619	1,304
販売費及び一般管理費	1,736	1,757
営業損失(△)	△ 117	△ 453
営業外収益	4	4
営業外費用	31	38
経常損失(△)	△ 144	△ 487
特別損失	11	0
税引前四半期純損失(△)	△ 156	△ 487
法人税、住民税及び事業税	4	4
法人税等調整額	△ 48	△ 199
四半期純損失(△)	△ 111	△ 292

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 百万円)

	当第2四半期累計 (2013年7月1日から 2013年12月31日まで)	前第2四半期累計 (2012年7月1日から 2012年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 948	△ 450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 57	△ 295
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,243	654
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0
現金及び現金同等物の減少額	238	△ 92
現金及び現金同等物の期首残高	380	551
現金及び現金同等物の四半期末残高	618	458



新取締役インタビュー

大学、研究機関等(シーズ)と実業界(ニーズ)のブリッジに自らの経験と知見を活かしたい

「工学知」へのたゆまぬ畏敬の念と、実業界への先進的適用を基本理念とする社風に共感。KKEの存在価値をより広い領域に知っていただきながら、次代を形づくる社会デザインに貢献したい。

取締役専務執行役員

山岡 和馬

KAZUMA YAMAOKA

ホールセール系銀行、大手鉄道会社での事業多角化企画推進、リテール系銀行の経験を経て、2013年4月当社に入社。2013年9月に取締役専務執行役員に就任。事業領域においては、同年10月より、マーケティング本部副本部長を兼務。

Q₁ 多様な業務に従事してきた中で見えてきた「技術」の重要性

大学卒業後、ホールセール系銀行に20年間勤め、研究開発や工場・設備投資など、長く安定的に必要とされる資金サポートに従事し、その後、新事業開発を積極化していた大手鉄道会社で、消費者や社会のニーズを探りながら、多様な事業の企画開発、立ち上げに携わりました。次に日常的な決済や短期資金といった形で企業を支援するリテール系銀行に就いたことで、日々の企業活動を支える資金支援に対する期待の大きさを改めて知ることとなりました。複数の角度から、多くの企業と縁を深めていく中で、資金と技術と営業、この3つの要素の歯車がかみ合っ、はじめて企業は成長するということを実感しましたが、中でも技術は絶対的に不可欠な要素であり、技術支援を期待される企業も多いと考えており、KKEが追求する「エンジニアリングを最大限に活用し、社会の問題を解決する」というビジョンに、深く共感しています。

Q₂ その技術の追求は、どんな貢献を生み出すのか。大きな目的のもと、緻密な仕事を積み重ねる「城を造る」KKEスタイル

経営コンサルタントの会社は星の数ほどありますが、経験を重視している企業がほとんどであり、様々な学会や大学の先生などと常にリアルタイムに情報交換、切磋琢磨しているところにKKEのユニークさを感じます。また、建築設計であるとか構造解析といった特定の領域だけでなく、取り組んでいる領域が非常に広いというのも魅力的です。一見して、外からは何をやっているのかよくわからないところもあると思いますが、むしろその混沌さに面白みを感じます。

技術者集団と聞いて、当初は「自分の眼前のことに寝食も忘れて没頭する、自らの世界に入り込んでいる人の集まりなのかな」と想像していましたが、そうではありませんでした。自らの技術に自信を持っていると同時に「この技術は世の中のこういったところで役に立っているのか」「社会にどのような貢献をもたらしたいのか」という明確な意図を表現する人が多いという印象です。例えば、お城の堀の

石を積んでいる職人に「何をやっているのか」と問うと「石を積んでいる」と答える人と「城を造っている」と答える人の2通りが存在するという話がありますが、KKEの技術者は、まさに「城を造っている」という意識のもと、コツコツと仕事を積み重ねる技術者の集団なのです。単一の技術や学問の中で自己完結するのではなく、複合的な技術の融合も視野に入れ、実際の世の中でいかに役立たせるかを考えながら仕事をする姿勢を、非常に頼もしく感じます。

世の中が複雑になり、ニーズそのものが見えていないことも増えてきている中で、KKEの果たす役割は、社会ニーズを引き出し顕在化する、あるいは自ら発想しながら技術者を巻き込み、お客様とともに問題解決を試みていくことであると、私は考えています。今後は、これまでKKEがお付き合いのなかった企業や業界にもKKEの良さを知っていただくことが、私の使命であると思っています。また同時に、優秀な人材の採用・育成、海外での工学知の展開という方面でも、自分の持てる力を発揮していきたいと胸躍らせています。

「中野イノベーションオフィス」を開設

2013年12月よりJR中野駅北口 中野セントラルパーク内に新オフィス「中野イノベーションオフィス」を開設いたしました。

今回の新オフィス開設は、新たなビジネス拠点として公共・公益施設が集積し、成長著しい中野セントラルパークエリアにおいて、新規事業創出と、地域に密着した既存事業展開の促進を目的としています。

同エリア内には弊社も参画している一般社団法人「中野区産業振興推進機構(ICTCO)」が設置されており、地域のイノベーションセンターとしての役割を担うことが期待されています。

今後も引き続き、防災・減災コンサルティング、ICT、交通シミュレーションを始めとした高品質なソリューションの提供を通して、より良い社会づくりに貢献してまいります。

